

反復行動に対応する要素と関係機関の受け持ち

第一信号系が優勢になって特定の行動が反復して生じる現象が対応すべき程度に至ったとき、他の複数の問題を伴うことが多い。反復する行動が原因となって他の問題を生じるのである。あるいは逆に他の障害が原因になって、特定の行動が反復することもある。

まずは、特定の行動が反復して生じる状態を「依存症」と呼ぶことは避けるべきである。なぜならば、「依存症」という言葉は特定の行動が反復して生じる状態の本質を誤解した言葉であり、また、その疾病状態にはさまざまな問題があるにもかかわらず、それらの存在を不明にするからである。この詳細に関しては条件反射制御法学会のHP ∞メール No. 5 に掲載されている。

対応においては、目の対象者が特定の行動を反復する疾病状態にある要素を明らかにしなければならない。その上で、自機関の機能を阻害しないように、必要な他機関のはたらきかけが円滑に対象者に提供される連携を関係機関で構成すべきである。

特定の行動を反復する者がもつ要素を挙げ、各要素の特性と対応する働きかけを記す。

1) 特定の行動を再現する反射連鎖の高い作動性

特定の行動を反復して問題を生じているヒトは、環境からの刺激に対してその行動を司る反射連鎖の作動性が過度に高いのであり、必ず、この要素をもつ。

これを制御することが、治癒に至らせるためには必須であり、条件反射制御法が高い効果をもつ。

2) 社会性（就労能力や対人関係能力）の低下

特定の行動を若年時から反復していれば、学業や就労を怠り、正常な対人関係をもつ機会が少なくなる。その結果、特定の行動を反復している一部の者は、計画する、それを実行する、時間を守る、約束を守る、机に向かい椅子に数時間座り続ける、嘘をつかない等の多くの社会生活における基本的な行動がとれない。

通常の者であれば環境からのさまざまな刺激に対してそれらを適切に行う反射を、それまでの生活で徐々に成長させてきている。しかし、特定行動を過剰に反復することとその不良な結果への対応に時間を費やして来た者は、それらの反射が不十分である。

この障害に効果的に対応するのが、専門家により構成された回復支援のプログラムあるいは自助的な生活訓練である。

欲求を治療により低減させていても、社会性の回復させる訓練を怠れば、社会との摩擦が生じ、個体にストレスを与え、それは個体を死なせる方向の刺激であり、第一信号系は生きる方向に強く反応し、過去に頻回に作動した生理的報酬獲得行動の反射連鎖は、作動開始の閾値が低いため、反応しがちである。つまり、過去に反復した問題行動への欲求が再燃する。

3) 経済的困窮

特定の行動を反復する者の一部は、就労ができないことから、あるいは、特定の行動のために浪費し、経済的に困窮している。それらの者には、対象者が回復するように経済支援をするべきである。

ときに、対象者が問題行動を反復して経済的に自立できない生活に対して、家族等が盲目的に近視眼的に経済支援をしていることがある。あるいは生活保護担当行政が、対象者が保護を受ける権利を過度に重視し、適切な治療を受ける指導に対象者が従う義務を軽視して、誤って経済支援をしていることがある。それらは問題行動の反復を支えている。

4) 違法性

反復する特定の行動が規制薬物の乱用あるいは万引き、痴漢行為、ストーカー行為等であれば、違法である。

対応を開始することは極めて重要であるので、それらを反復する者が援助側専門職に対応を求めてくれば、援助的にかかわる専門職は、援助を優先して治療等に受け入れるべきであり、通報は避けなければならない。

一方で、それらの行動の発現を第二信号系反射がとめる作用を強く発揮するように、処遇に警察職員、麻薬取締官、保護観察官等が参加し、法による抑止力を設定することが効果的である。

また、現時点では次の規定はないが、検挙された反復する行為の疾病性に対して治療と必要な訓練を強制する規定、並びに、検挙されるまでの治療や訓練の怠りに対して罰則を与える規定等が制定されるべきである。

上記に関する詳細は、条件反射制御法学会のHP ∞連携支持施設の頁に掲載されている。

5) 幻聴や妄想等の判断能力の障害

薬物やアルコールの摂取を反復した者は幻聴や妄想等をもつことがある。それらに対しては精神科医療による保護あるいは観察と投薬が効果的である。

6) その他の精神障害

発達障害や精神発達遅滞をもつ者は、評価、予測、計画の能力が不十分であり、判断に影響を与えることがある。それらには投薬や環境の調整、生活訓練を要する。